シャウトンとかくれんぼひめ

賈芝編——君島久子訳

あかね書房

中国民話

シャウトンとかくれんぼひめ

賈芝 編＝君島久子 訳
梶山俊夫 絵

こども世界の民話——⑨——中国編

あかね書房版

こども世界の民話9
シャウトンとかくれんぼひめ

＊訳　者
君島久子（きみしまひさこ）
＊発行者
岡本陸人
＊印　刷
錦明印刷株式会社
新興印刷製本株式会社（本文組）
＊製　本
中央精版印刷株式会社
＊発行所
株式会社 あかね書房
東京都千代田区西神田 3-2-1〒101
電話　東京（263）0641〈代〉

1971年2月5日第2刷
・定価480円

■訳者紹介

君島久子（きみしまひさこ）

1925年栃木県に生まれる。慶応義塾大学、都立大学大学院卒業。現在、武蔵大学助教授、慶応義塾大学、成蹊大学講師。『白いりゅう黒いりゅう』でサンケイ児童出版文化賞を受賞。他に『中国民話集』『月からきたトウヤーヤ』など訳書多数。

■画家紹介

梶山俊夫（かじやまとしお）

1935年東京に生まれる。武蔵野美術大学中退。1960年シェル美術賞受賞。作品として、グラフィック・マニフェスト『のどかなくわだて』、絵本に『かえるのごほうび』『くじらのだいすけ』『ごろはちだいみょうじん』ほかがある。

NDC 923

賈芝 他
シャウトンとかくれんぼひめ
賈芝他編　君島久子訳
あかね書房　1971
116 p　23cm　（こども世界の民話9）

©1970年 Printed in Japan 訳者との契約により検印なし

8397－12009－0027

シャウトンとかくれんぼひめ

賈芝 編＝君島久子 訳
梶山俊夫 絵

こども世界の民話——⑨——中国編

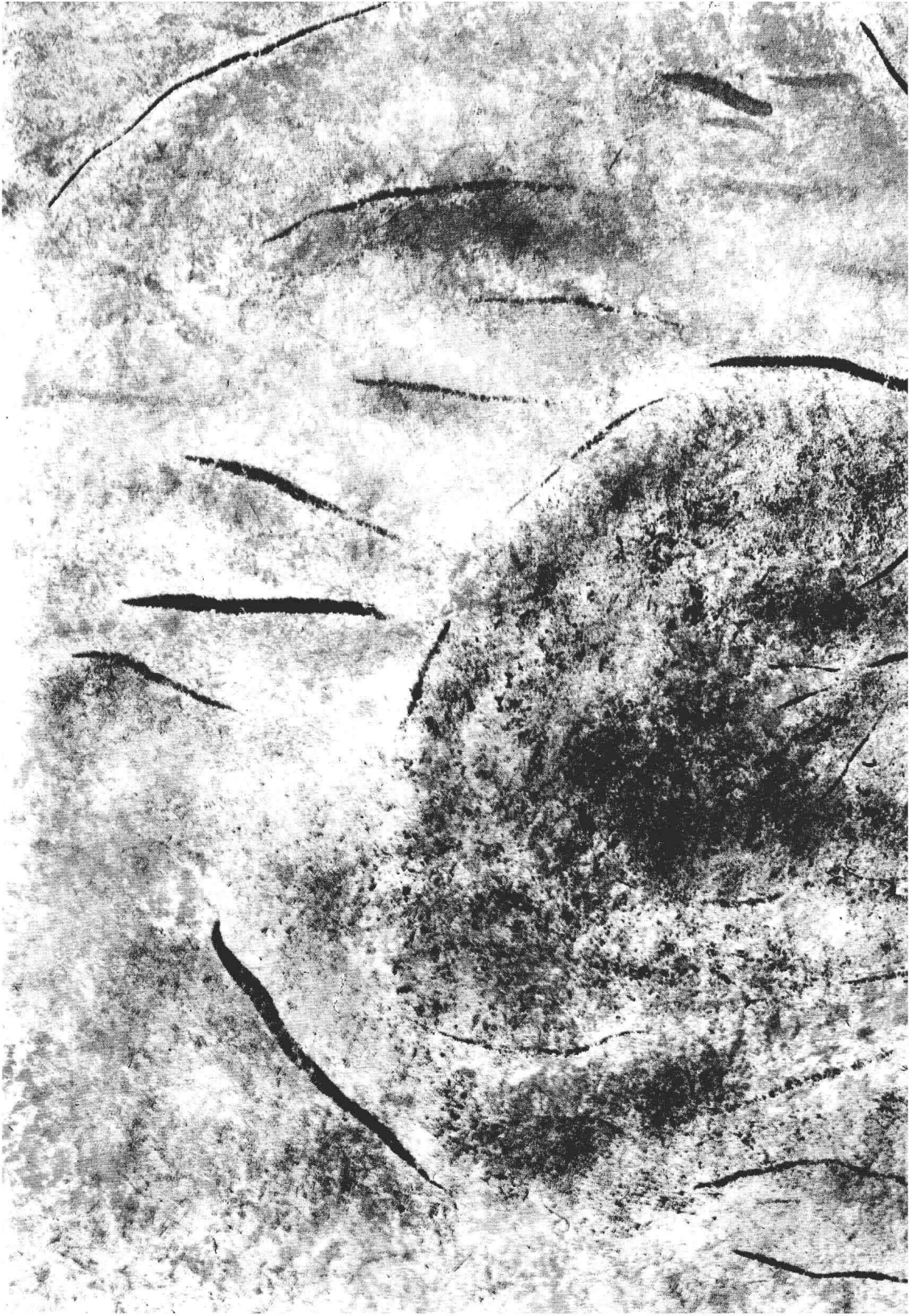
あかね書房版

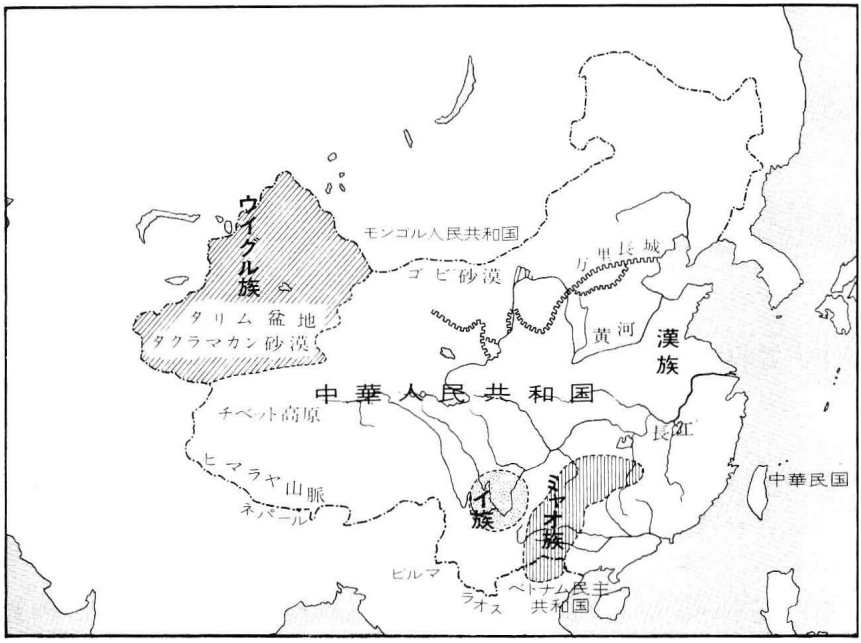
此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

もくじ

天地をつくった巨人ニジガロ（イ族）……7
魔法のドラ（漢族）……25
岩じいさん（ミャオ族）……57
シャウトンとかくれんぼひめ（ウイグル族）……79
あとがき……114

表紙デザイン／JAC
イラストレーション／梶山俊夫





■この本のお話をつたえた民族

イ族――中国大陸西南の奥地、雲南省や四川省の山岳地帯にすんで、農業や牧畜をいとなんでいます。近くにすむチベット族と言葉や生活様式に共通しているところの多い民族です。

漢族――総人口七億二千万のうち、その九十数パーセントをしめる中国の代表的な民族で、中国大陸のほとんどの地域にすんでいます。

ミャオ族――中国南西の山間部、貴州、湖南、広西などの省に自治区をつくり、一部はベトナムやラオス、北タイの山岳地帯にもすんで、焼畑耕作（山や林の草木を焼き、そのあとに畑をつくる農業）をいとなんでいます。

ウイグル族――昔は北方に広い領地をもち、ながいあいだ遊牧生活をしていましたが、現在はタクラマカン砂漠・タリム盆地のオアシスに地下水路をひいて、綿花やくだものをつくっています。

天地をつくった巨人ニジガロ
ーイ族ー

むかしむかしのそのむかし。

天と地が、やっとできたころのことです。

空には、太陽もなかったし、月や星もありませんでした。地上には、山もありませんし、川もなかったのです。

この宇宙は、こんとんとして、まっくらやみ。なんにも見ることはできませんでした。

そのころ、ひとりの女神さまがすんでいました。

ある日、とつぜん、一わのふしぎなタカがまいおりて、ぽとーんと、たまごをおとしていきました。女神さまは、そのたまごをひろって、ひといきにのんでしまいました。

すると、まもなく、女神さまは、男の子をうみました。その子の名まえは、ニジガロです。

女神さまは、ニジガロを、つよい、おおしい子にそだてようと、わざと、岩のわれめのところに、ほうりこんでおきました。

ニジガロは、おなかがすくと、岩にはえているコケをたべました。のどがかわくと、コ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

ケにやどるつゆをのみました。

こうして一年たつと、ニジガロは、岩のあいだのわれめから、ゆっくりとはいだしてきました。

二年たつと、もう、しゃべることができました。そのうえ、とてもつよくて、かしこい子どもになっていたのです。

ニジガロが、この世にでて、まっさきにこまったことは、あたりがどこも、まっくらなことでした。

じぶんののばした手のゆびさえも、見ることができないのです。歩きまわるのに、とてもこまります。

ニジガロは、おかあさんの女神さまにたずねました。
「世の中は、どうしてこんなにくらいのでしょう。」
すると、女神さまはいいました。
「ニジガロよ。おまえは、おとうさんのない子です。それは、どんなこまったことにであっても、おまえひとりの力でのりこえていけ、ということなのです。もし目のまえがまっくらなら、じぶんの力であかるくする方法をかんがえるのですよ。」
このことばは、ちえの火だねとなって、ニジガロの心に火をともし、ニジガロに、ゆうきと力をあたえました。
そこで、ニジガロは、まっくらな岩の山を、手でさぐりながら、のぼりはじめました。
ころんでも、ずりおちても、きずついても、歯をくいしばって、のぼっていきました。
そうして、世界でいちばん高い山のてっぺんに、のぼりつきました。
いまにも、天まで手がとどきそうでした。
ニジガロは、その高い山の頂上にすわって、天の神さまに、おいのりをささげました。

「神さま。どうか、この天地をあかるくてらしだすものを、おめぐみください。」

ニジガロが、いっしんにいのりつづけていると、とつぜん、東の空がぱっとあかるくなって、太陽があらわれました。

ひとつ、ふたつ、みっつ……、ぜんぶで六つの太陽です。世界はこれで、すみずみまで見わたせるようになりました。

けれども、ニジガロは、まだものたりません。というのは、夜になると、太陽はすっかりかくれてしまって、まっくらになるからです。

そこで、また、天の神さまに、

「どうぞ、まっくらな夜をてらしだすものを、おめぐみください。」

と、いのりました。

すると、たちまち、雲のあいだから、月があらわれました。

ひとつ、ふたつ、みっつ……、ぜんぶで七つのお月さまです。

けれども、ニジガロは、まだ、ものたりません。そこで、

「月のなかまになるものを、おめぐみください。」
と、天の神さまにいのりました。すると、空いっぱいに、きらきらひかる星があらわれました。
こうして、天には、太陽と月と星があらわれて、ひるも夜も、あかるくなりました。
さて、世界があかるくなってみますと、ニジガロは、がっかりしました。地上には、山もなければ川もないので、ほんとうにあれはてた、さびしいながめなのです。
そこでニジガロは、九日九夜、歩きつづけて、この世のはての、ジロバウという土地まで、でかけていきました。
そして、やすむまもなく、三つかみのたねをあつめると、夜を日についで、かえってきました。
ニジガロは、高い高い山にのぼると、このたねのひとつかみをとって、ぱっと、地上にまきました。
すると、あれはてた地上には、みるみるうちに、山と川ができました。

また、ひとつかみをまきました。こんどは、土の中から、草や木がはえてきました。のこりのひとつかみをまきますと、人間や、いろいろな生きものになりました。

ニジガロは、高い山のてっぺんから、まんぞくして、このありさまをながめわたしました。

いまや地上には、ニジガロの力で、あかるい、みどりの野山がひらけました。川の水は、さらさらとながれています。

と、そのときです。

その、みどりの草や木が、だんだんかれはじめたのです。そのうち、ながれていた川も、しだいに水がなくなってきました。

『おや、どうしたんだろう。』と、ニジガロはかんがえました。そして、はっと気がつきました。

「天には六つの太陽。夜になれば、七つの月。これでは、あつすぎて、みんなやけてしまうのだ。」

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com